

R6. 1. 4 仕事始め式 市長訓示

職員の皆さん、新年明けましておめでとうございます。この年末年始、家族と向き合いながら、元気・やる気・気力を養ってもらえましたか。

天候もよく穏やかな新年を迎え、よい年を迎えることができましたが、今年はお正月から石川県能登地方を震源とする震度7の地震が起こり、10代の中学生から90歳代の高齢者まで73人が犠牲になっています。また、18自治体で347の避難所で約3万2000人が身を寄せて不自由な生活をされています。さらに被災地に向かおうとしていた海上保安庁の飛行機と旅客機が衝突、炎上し5人の尊い命が亡くなりました。

心からお悔やみを申し上げるとともに、避難所で苦しい生活をしておられる方々にお見舞いを申し上げ、1日も早い復興復旧を願うばかりです。

先ほど職員の皆さんとともに黙とうを捧げました。今後、恐らく復興支援に職員の皆さんの派遣があると思いますので、ご協力をよろしくお願いします。

さて、今年も始まりましたが、今回の仕事始め式は、市民センターで職員の皆さんの前で行えることができ、大変嬉しく思います。

昨年の仕事納め式の動画では、市制20周年のイベントで市民の方々の活力、職員の皆さんの活力を感じられた1年になりましたので、昨年の漢字一字は、活力や活躍の「活」だと話しました。昨年のいい流れを引き継ぎながら3月24日の「NHKのど自慢」まで20周年記念事業を進めていきたいと思います。

そして、3つのテーマである「人権の尊重」「環境の改善」「平和の維持」を、次代を担う世代に繋いでいくことは、引き続き進めていかないとないと思います。

今年は、市制施行21年目になり、新たに始まる年だと思います。

これから先の瑞穂市を見据えて計画する年、今後10年先は、どんな社会になるのかを見据えて、どのようにしていかなければならないのか計画を立てる年になります。

今年漢字1字は「計」です。今年の目標は、計画を立て、実現していくことです。

計画のひとつ「瑞穂市未来まちづくり構想2035」では、10年先、どんな社会になるか、どんな瑞穂市にしたいかを考えていきたいと思っています。この計

画の目的は、「ウエルビーングみずほ ～持続的な幸福の実現～」です。「10年先こんな瑞穂市にしていかなければならない」という強い思いと熱意をもち、職員の皆さんと共に臨んでいきたいと思えます。

よく「1年の計は元旦にあり」と言われます。1年の計画は1年の初めである元旦に立てるという意味になります。それが、子ども計画であったり、障がい者や高齢者の計画であったり、都市計画マスタープランでもあり、その先には市の最上位計画である第3次総合計画の策定に繋がっていくと思えます。

子どもたちに関しては、昨年4月に子ども家庭庁が設けられ、瑞穂市では先行する形で、子ども支援課を令和3年4月に新設しており、家庭への支援や子育て支援を行ってきました。

子ども家庭庁は、子どもたちが健やか幸せに成長できる社会、「こどもまんなか社会」の構築を目指しています。瑞穂市でもこの趣旨に賛同した個人や団体、企業にこども応援サポーターとして多くの人に幅広い活動をしていただくために、本日、仕事始め式で「こどもまんなか応援サポーター宣言」をします。この内容は、時間の関係で読み上げませんが、子どもたちを中心とした街づくりをしていくという内容です。

仕事始めにあたり、まず職員の皆さんの前で宣言をし、そして市民の皆さんにも周知し、賛同した個人、団体、企業にこども応援サポーターとして幅広い活動をしていただくものです。

瑞穂市でも担当部署として子ども支援課、幼児教育課、保育所、幼稚園、小・中学校をはじめ、子どもに関係する部署では、こどもまんなか応援サポーター宣言を基に事業を策定していただきますが、個人でもこの趣旨に賛同し、職員一人ひとりが「できる活動」をお願いしたいと思えます。そして、瑞穂市全体でこども応援サポーター制度を進めていきたいと思えます。

私は、「こどもまんなか社会」の構築は人口減少対策だと思えます。

その人口減少対策は、広範囲なものになりますが、それぞれの自治体の特色や特徴をよく分析した人口減少対策を行うべきであると考えています。

こどもまんなか社会の「子どもたちが健やかに成長できること」とは、「子どもの持つ力を引き出し、その力を発揮させること」、すなわち「子どもの育ちを支援し、子どもの持つ力を最大限に発揮すること」であると考えます。

それを実現するためには、保護者や個人、団体、企業などの社会へのサポートが必要になります。こどもまんなか応援サポーター宣言は、一人ひとりの子ども

もの力を最大限に引き出し、生き生きとした子どもの育ちを支援するものであります。

そのような取り組みを通じて、子どもたちは瑞穂市に愛着をもち、保護者や親は「子育ての喜びを感じる」「子育ては楽しいと思う」「子育ては仕事、キャリアにプラスになる」と感じ、子育てが終わり近づいたときに「わが子がいてよかった」と思えることが大切だと思います。

社会全体で、「子どもがいると良い、子ども欲しい、子どもを産みたい」と思う社会を創り上げることが、私はこどもまんなか社会の目的だと思います。

繰り返しになりますが、今年の瑞穂市は「計」をテーマに計画づくりの年にしていきます。そのためには、常に課題をもっていることが大切です。

課題とは、理想と現実との差になります。瑞穂市民のため、子どもたちのために、何が最善であるのかを考えて、課題の解決をしていきたいと考えています。

今年は、瑞穂市に重要な年であり、健康で生きがいをもち幸せな暮らしができる「健幸都市みずほ」の実現に向け、全力で進めてまいりますので、職員の皆さんには、連携し力を合わせて一丸となることをお願いし、年頭の訓示とさせていただきます。